

議 会 報

6月議会の一般で質問で（1）ウメ輪紋ウイルス対策とアップについて、市長・教育長に質問しました。質

ウメ輪紋ウイルス対策と	
（冒頭の意見）青梅の梅はウメ輪紋ウイルスの影響により、青梅のあらゆる産業に大きな打撃を与えています。一	
全ての青梅市民の願いと確信しています。このような中	
上がれば、平成28年度からの梅再植樹の可能性が上	
一回目の質問	
①強化策は強化地区内での年3回の全樹調査・感染樹の即時	伐採年2回のアブラムシ防除の薬剤散布からなるが、全ての
作業に市の職員が立ち会う、これは市を挙げての対応か？	
②感染樹の即時伐採の徹底。感染樹の伐採に応じない人には	
従来以上に丁寧に説得し、必要があれば地元の縁者の力を	
借りる。それでも駄目なら強制力を働かせる用ありと考えるが？	
③農薬散布については、各家庭1軒1軒了解を取り進めるが、	
丁寧な安全性の説明を願いたい。使用農薬は農薬取締法で	
安全性が定められ、使用基準を厳格に守って実施している事を	
十分説明し、不安を払拭して欲しい。飛散防止についても極力	
丁寧に行って欲しい。作業班には地元の人を加えて欲しい。	
「梅の里再生計画について」	
①「吉野梅郷花祭り」については、肝心の3月に菜の花が咲かず	来ていただいたお客様に、申し訳なかった。3月に花で覆う事
無理がある。「吉野梅郷市民祭り」は高円寺阿波踊りもあり人出	
があった。花祭りにこだわらず、「吉野春祭り」あるいは、梅の	
再生に軸足を移した「梅の里再生祭り」としたらどうか？	
②農地への植栽準備については茨城で5千本の苗を確保養成中	
農地への梅植樹に農家の高齢化が問題。農地への再植樹支援	
のため、ボランティアの増員と地元経験者を組織しての支援要	
③梅の公園等では多品種の観賞用梅樹が必要。苗木のみならず	
成木も必要となる。受け入れ先の調査・確保の準備はどうか？	
④梅の里再生に向けての予算等について伺う	
28年度からの復興再生プログラムに入るにつき、梅の公園	
完了までの予算はどの位か？凡その積算は出来ているのか？	
国・都からも助成を受けると思うがどのように額を調達するか？	
⑤梅の里再生基金について伺う	
損失補償金・市民からの募金等で5500万円余と記憶している	
が、現在高は？基金の充実は大きな課題。あらゆる機会を捉え	
募金活動の要。ふるさと納税がHPに掲載されるも、PR不足？	
ふるさと納税で当市に入った額？そのうち梅の里再生の額は？	
⑥梅サミット加盟の市・町とは連携して、対策に取り組む確認が	
出来ているが、、加盟の各市・町への支援要請は如何に行う？	
二回目の質問	
（冒頭意見）強化策の質問の中で、伐採にどうしても応じない人	
植栽を目指すには、今回の強化策を実施し効果を上げる事」と	
ないと考え、市長もその方向で努力した。ただ、強制力行使には	
どの判断の下、今回の強化策が出た。従ってこの答弁はなんと	
強い決意と受け取り、2回目の質問にはいります。	

①梅の公園の予算について、早期に積算するとの答えでした。  
 積算に際し、留意すべき点を指摘し、精度を高め示されたい。  
 ・まず、当然にウイルスチェックをきっちりやること  
 ・梅の公園には多種類の梅が必要。価格の市場調査の徹底  
 ・運賃・人件費は？遠隔地のコストアップを積算に考慮  
 ・斜面が多く機械が入らない所。人力による想定外のコスト増  
 ・平地の植栽はイベント等で実施も、業者任せにはしない

②ふるさと納税についての2回目の質問です。  
 ふるさと納税の活用は重要で、PRを強化するとの答弁でした。  
 寄付金に対する各市町村の返礼品PR合戦の様相も生じており  
 手をこまねいていると、当市に入るべき税が他市等に流出する。  
 梅の里再生のためのふるさと納税寄付金を呼び込むため、  
 返礼品について積極的な検討を願いたい。返礼品は単に物  
 だけでなく、利用券・宿泊券等各種サービスも対象とし、青梅  
 に人を呼び込む手段として検討して頂きたい。市長の見解は？

小中学校児童・生徒

(冒頭の意見)全国学力学習状況調査の結果、市内の小中  
 東京都平均のみならず、全国平均をも大きく下回っている。私  
 当時の教育長から5年後には東京都平均を上回るまでにす  
 粘り強い努力と多くの課題解決が必要であるが、特に家庭

一回目の質問

5年間で東京都水準を上回る目標のビジョンを示していただきたい

その上で、

- (1)①教育における家庭の重要性をどう捉えているか？
- ②家庭教育の充実というテーマの具体的取り組みに  
 ついて、お聞かせ下さい
- ③家庭教育の原点は親子・祖父母と孫等とのふれあいと考  
 えている。子供とのふれあいの時間をほんの少しだけでも増やす  
 就寝前に10分間だけ、読み聞かせをしましょう。そんな啓蒙  
 活動、PRをしたらどうか？見解を伺いたい。
- ④学力レベルの高い県、具体的には秋田・北陸3県等の家庭の  
 有り様に参考となる点は無いか？そこに研修に行ったら、  
 どうか？見解を聞きます。
- (2)家庭・学校・地域の連携について。私は子供は見守られること  
 で、成長すると思っている。その点から、地域の人々の子供達  
 への見守りが重要と考える。子供達の発表の場を親達が見て  
 やる。地域の人々が見守ってやる事が成長の糧となると思う。  
 この観点から
- ①「学校運営連絡協議会」の役割と機能はどういうものか？  
 その意見は教育現場に十分反映されているか？伺います。
- ②学校と地域がより密接な関係を築く方策は何かありますか？
- ③学校行事に多くの地元の人が参加する事が重要。中でも  
 授業参観が重要で、私は公開授業を見に行こう呼びかけて

いる。参観者がいるだけで、先生の緊張感、子供達の態度等  
が変わる。公開授業の参観者はどの位いるか？親以外の  
地域の参観者は？参観者を増やす方法は何かあるのか？

### 二回目の質問

(冒頭意見) 勿論学力は子供達の評価の一面に過ぎません。現  
徳育の三つの面で健やかに成長する子供達の手助けをするの  
将来の可能性を広げることです。今様な取り組みが実  
答弁の中でも、私としては、・家庭学習の時間確保の取り組  
参観者を増やす取り組みについては是非積極的に取り組ん  
良い物はどんどん取り入れていただきたい。そして、東京都レ

① 2回目の質問です。サタデースクールの実施拡大である  
程度の学力底上げが期待できるが、同時に中位上の子供達  
の更なるレベルアップが必要。そのためには、どのような  
施策が必要と考えているか？

報告 NO1

梅の里再生計画について (2)小中学校生徒児童の学力疑の概要は下記の通りです。

梅の里再生計画について
より壊滅的な状況にあります。梅の衰退は観光のみならず、一日も早くこの問題を解決し、青梅の梅を復活させる事は、今回新たな強化策が示されこの強化策により実効が出てきたことで地元では喜びと安堵の声が聞かれます。
市長答弁
①市が主体的に調査・消毒等についておこなっている。感染樹の即時伐採交渉も市の職員が行っている。6月に主査1人増員した。既に延べ245人の市職員を動員しており、市を挙げて対応している。
②強化策を実施し28年度からの植栽を目指す中、対策の効果を上げることが、1日も早い植栽につながる。国・都とともに、地元のカも借り、従来以上に粘り強く説明を重ね、同意を得よう対応する
③地区内4千軒に消毒のチラシを配布、広報及び学校に周知した。薬剤は国の登録を受け、都で効果確認が行われた薬剤で、国・都・市の三者で協議して決定した。植栽状況や風向きを踏まえ、適宜ネットを使用する他、背負い式噴霧器で圧力を調節する等飛散防止に十分留意する。今後とも地元の人の同行を頂上実施
④梅郷の気候も考え、早咲き種を播いたが祭り期間中開花せず、公園の来場者も昨年の1割未満。3月に梅の公園を花で埋め尽くすのは無理。早い時期に開催方法、開催時期、名称を含め「まつり」について、梅の里再生計画推進委員会や関係団体と協議する。名称として提案の「梅の里再生祭り」も良い名と考える。
⑤現状16名の援農ボランティア。27年度も2期生を募集増員予定。高齢農家の人的支援は必要。援農ボランティア育成のため地元経験者の協力が不可欠。指導者の組織化についても検討する。
⑥苗木は450本確保済み、JR東日本八王子支社から360本提供予定。数ヶ所の植木業者を調査中、成木についても確保準備を進行
⑦梅の公園再生完了までの予算につき、苗木・成木の植栽場所、本数、斜面への植栽等も考慮し早急に積算する。費用の補助制度は現状無いが、国・都にも働きかけて行く。
⑧梅の里再生基金についてお答えします。基金の残高は26年度末、5570万円。募金活動は青梅マラソン等各種イベントで実施の他、立川高島屋様の協力で中元コーナーにブース設置。ふるさと納税の資金6件1213万円は基金に積立再生に向け、ふるさと納税は大変重要、これまで以上にPRに努める
⑨昨年のサミットで「協力・支援」の宣言。協議会として要望書を農水省宛提出。加盟自治体の市支援は力。支援内容を今後協議
市長答弁
への強制力行使につき、市長は答弁で触れず「28年度からの再答弁された。私は以前よりこの問題の解決には強制力の行使の他、様々なハードルが有り、かつこの時点では必ずしも得策ではない。でも強化策の効果をあげ28年度からの再植栽を目指す市長の

①

- ・一番重要な事と考え、苗木・成木確保に当たり、万全を期す
- ・今後も幅広く価格調査を行っていく
- ・物流会社から運搬協力の話もあり、地元の人々の力も借りる
- ・植栽場所の多くが斜面、適正な価格となるよう研究する
- ・植栽方法については地元の意見を伺いながら進める

②返礼品の選定について、寄付して青梅に親しみを感じるような市の特産品を検討中。寄付が増え、返礼品が全国に送られる事で、経済効果が生じると捉えている。さらに、市内宿泊施設や温泉施設の割引券等、青梅に足を運んでいただく返礼品を用意することで、観光収入に結びつく効果も期待できる。この機会を捉え、地域の活性化はもとより、ひいてはシティセールスおもてなしの施策との相乗効果が図れるよう、取り組みを進めてまいります。

### ③の学力アップについて

学校児童・生徒の学力は、国語・算数・数学の全科目においては、平成25年度の市長との懇談会でこの問題について質問すると回答を得た。学力向上は一朝一夕に出来るものではなく、教育の充実と家庭・学校・地域の連携が重要と考え質問する。

#### 教育長の答弁

教育委員会は「学力向上5か年計画」を策定した。内容は家庭学習の定着及び充実に向けた啓発資料の作成、習熟度クラス及び少人数クラスの導入等7項目におよびます。

①家庭教育は全ての教育の出発点、大変重要な場と捉えている。東京都が行った調査で当市の児童・生徒の家庭での学習時間が少ない。対策として冊子「家庭学習のすすめ」を配布、説明し児童・生徒・家庭への啓発をすすめている

②小学校の1例として家庭学習の目標時間を「15分×学年の数」として、毎日宿題として取り組み、5月当初は52.5%の達成率が10月には78.6%に伸びた。この取り組みを他校にも周知しました。

③家庭教育において、親や祖父母とのふれあいは欠かせないものと捉えています。しかしながら、近年共働きや核家族化が進む中、ふれあいの時間は減少傾向です。親子読書への取り組み・地域のイベントを通してのふれあい等、全校へ発信し啓発してまいります。

④学力レベルの高い他県への研修については、大分県豊後高田を視察。同市は土曜補習を全国に先がけて実施し、数年かけて県内トップレベルまで押し上げた。当市のサタデースクールの参考にした家庭学習・家庭教育の充実の観点から先進市視察を検討します。

(2)① ② 家庭・学校・地域の連携についてお答えします。

①「学校運営連絡協議会」は校長が保護者や地域住民と意見交換を行うことで、地域に開かれた学校づくり、教育内容の充実等を目的に全小中学校に設置。学校の経営方針・教育活動に関し様々な事項の協議を行うことを目的としています。同協議会の役割には学校評価がある。校長は学校評価の結果や結果に至る協議をもとに、次年度の学校経営方針に生かしています。

②教育活動の充実には地域と密接な関係が必要不可欠。学校でも祭事等地域の伝統文化の継承に取り組む他、「防災訓練」や「清掃活動」への参加を通して、地域との連携協力を築いています

③年間を通じて計画的に学校公開を行っています。

26年度全校で実施した道徳授業地区公開講座では小学校では

保護者の30%、中学校では同10%の参加。地域の方の参観は  
小学校149人、同中学校74人。参観者を増やす方法につき、  
公開日程の継続周知の他、自治会・PTAの協力得て呼びかける。

### 教育長答弁

環境の良い青梅で伸び伸びと成長することが第一で、知育・体育  
りが大人たちの務め。されど、学力です。学力の向上は子供達の  
に施されているが、これを是非継続し、常に点検して欲しい。  
み・児童・生徒・保護者への家庭学習の啓発活動・公開授業  
でいただきたい。また、教育先進地への視察に行ってください  
ベルを目標に、まずは全国レベルへの引き上げを強く希望する。

①「青梅サタデースクール」は28年度で全校実施する。

全校実施後は、対象学年の拡大や学習内容の幅を広げる等の  
改善を図り、発展学習にも対応することで、中堅以上の子供達の  
更なるレベルアップを図って行きたいと考えております。